目標および成果指標の設定　記入様式

活動団体名：　那智勝浦町

上位関連計画にみる地域の将来

○パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26％削減、さらに2050年までに80％削減

○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24％、
2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質ＧＤＰ）35％減。

○現在の人口　15,237人（2019年1月1日現在）、将来　11,487人（2030年）、7,839人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））

○地域の総合計画に示された将来目標　現状：自然増減108人（2013年）→目標：90人（2020年）

○地域の環境分野の上位計画の将来目標　クリーンセンターでのごみ処理量　現状：6228t(2011年）→目標：5357ｔ（2026年）

→

①目指すべき姿

当町は熊野信仰に基づいた環境負荷の少ない暮らしで住民幸福度が高い「環幸」のまちをめざす。「環幸」のまちでは、「エネルギー」「自然保護・交流」「資源循環」の各分野で以下のような姿が実現し、人も動植物も住みつづけられる豊かな環境に恵まれた持続可能なまちにつながっている。

＜エネルギー＞町も関与するシュタットベルケが、町内でバイオマスエネルギー事業や小水力発電事業を行うとともに、町内の事業者や住民に電力を販売しており、エネルギーを通じて地域内での資金循環が活発になっている。また、シュタットベルケが開発したエネルギー源は、災害時にも活用できるように整備されており、しなやかなバックアップ体制が構築されている。

＜自然保護・交流＞「那智の滝 100年の森事業」によって森林環境の保全が進展している。そして、人々が自然と触れ合う機会が豊富に設けられており、地域の人々の郷土教育や、観光客のリピート訪問にも貢献している。また、海では持続可能な漁業が普及しており、勝浦漁港がはえ縄漁法のまぐろ漁船でにぎわう漁港となっている。そして、「国産・天然・生」という那智勝浦のマグロの魅力を国内外にPRすることが、観光客の増加やマグロ関連商品の高付加価値化に繋がっている。

＜資源循環＞食材の自給率が向上しているとともに、食品（加工）残さ等の廃棄物を地域内で活用する仕組みが構築されている。また、地産地消も進展し、町内や近隣市町村も含めて食や資源の循環が実現している。

各分野での課題解決型事業を中心に、新たな仕事が創出されており、『持続可能な農林水産業』や『地域資源を利用した域内経済循環で活気あるまち』が実現している。こうした取り組みは環境保全にも配慮・貢献しており、『美しい自然を守りたのしめるまち』の実現に繋がっている。また、都市や都市住民とも緊密に連携し、必要に応じて地域に不足するノウハウや人材の提供を受けるとともに、都市にはない体験や商品を提供するなど、『都市との交流で新たな価値創造』が実現している。

②具体的なアクション

・町や特にエネルギーと関わりの深い地域の事業者が中心となり、電力小売事業や再エネ事業を実施するシュタットベルケを設立し、シュタットベルケを中心にエネルギー事業に取り組む。

・エコツアーやジビエ等新しい取り組みによる観光の振興に努める

・町が中心となって食品残さを活用する仕組みを構築する。

・鳥獣害や交通、防災など課題解決を新たなビジネスに結びつけて町の活力向上に努める。

→

↓

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値（2020年度末）	実績値（2020年度末）	単位
環境	脱炭素社会	シュタットベルケによる再エネ計画数	0	10		件
	自然共生社会	エコツアーの新規メニュー数	—	1		件
	循環型社会	食品残渣由来の堆肥受入れ農家数	0	5		件
	循環型社会	ジビエの処理施設数	0	1		件
経済	地域内経済循環	シュタットベルケ設立	0	1		件
	町の稼ぐ力	漁港見学ツアーの参加者数	800	1,000		人
	町の稼ぐ力	観光用のEV導入計画	0	1		件
	まちの活力	民間による課題解決型事業の計画数	5	10		件
社会	災害に強いまち	避難場所への非常用再エネ電源設置検討割合	0	10		%
	人口減少	移住者数	56	71		人

→

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値（2020年度末）	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	脱炭素社会	シュタットベルケによる再エネ事業規模	0	0	2,030	4,000	kW
	自然共生社会	エコツアーの年間参加者数	17,000	—	2,030	20,000	人
	循環型社会	事業系の食品残さの再利用量	150	—	2,030	200	t
	循環型社会	ジビエの年間生産量	0	—	2,030	100	頭
経済	地域内経済循環	シュタットベルケの電気契約シェア	0	—	2,030	10	%
	町の稼ぐ力	漁港見学ツアーの参加者数	800	1,000	2,030	1,500	人
	町の稼ぐ力	観光用のEV利用者数	0	—	2,030	10,000	人
	まちの活力	民間による課題解決型事業の累計事業数	5	10	2,030	100	件
社会	災害に強いまち	避難場所への非常用再エネ電源設置割合	0	—	2,030	100%	
	人口減少	移住者数	56	—	2,030	206	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

これから取り組みを開始するものが多いため、短期目標は長期目標の達成のための初期の足掛かりとなる目標を設定した。
例としてシュタットベルケにおいては、最終的には町内で多数の住民・事業者にサービスを利用していただき、町内で大きなエネルギー・資源・資金循環が生まれることを目的として、短期目標では組織の立上げを目標としている。